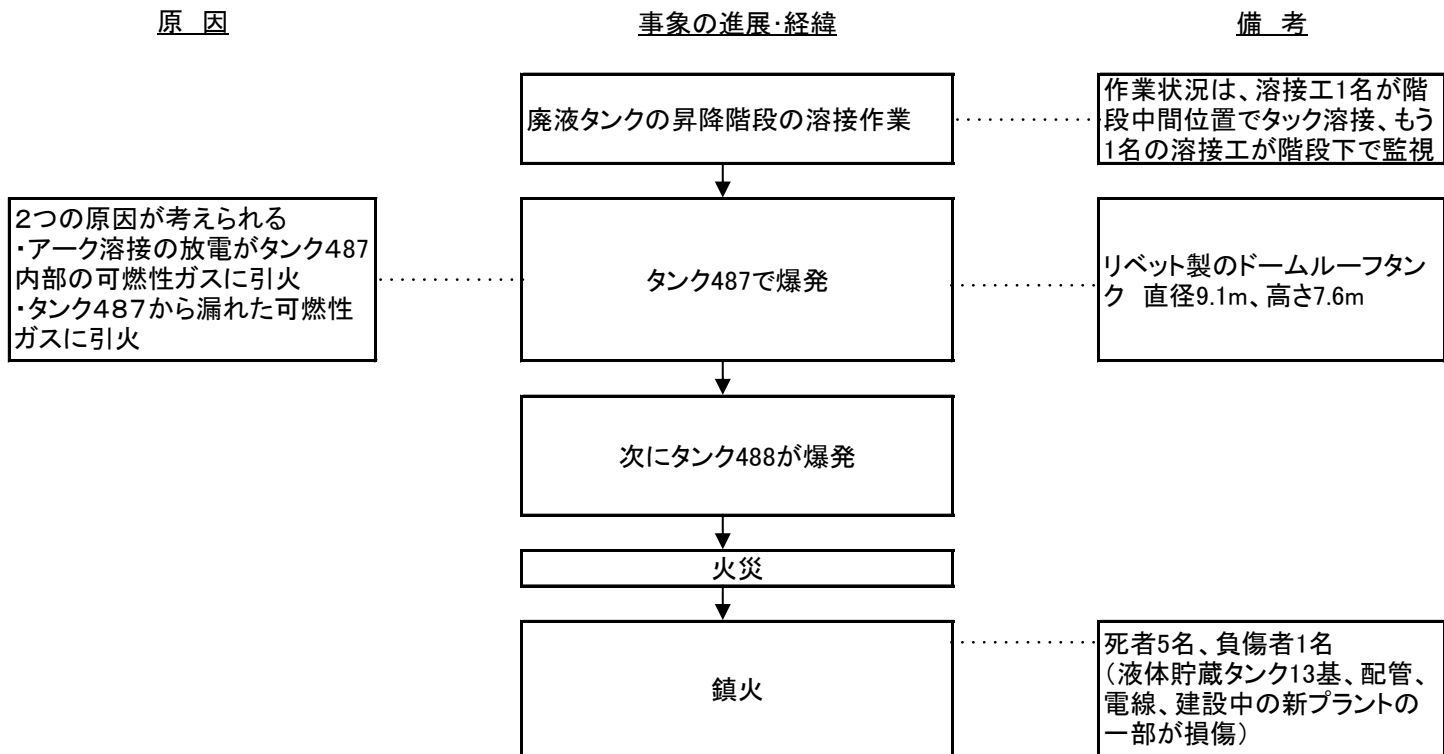


00158	廃液タンクが階段の溶接作業中に爆発
発災年月日	1995年10月16日
装置	廃液貯蔵タンク
運転状況	貯蔵
特徴	階段手すりの溶接工事中に廃液タンクの可燃性ガスに着火・火災



再発防止策
記述無
安全専門家コメント
<p>・100年以上の歴史をもつ製油所で発生した5名が死亡するという惨事を関係者はどう受け止めたであろうか。日本の製油所も1960・1970年代には製油所で死亡事故が発生した。特に、取扱い物質に対する技術力が不足していた。</p> <p>・当該タンク火災事故のように、使用年数が58年もの長期使用でリベット製タンク、内容物が廃液であり軽質炭化水素が十分含まれていることから、工事着工の条件があまりにも緩すぎた事例といえよう。通常ならば工事計画時点の安全審査や確認会で、内容物の完全除去や溶接着工前の安全対策についても事細かく遵守事項を規程すべきであるし、万が一のときの通報・避難対策が不十分であったとしかいえない。タンクに係る火気使用工事の危険性を十二分に理解した対策が必要である。</p>

引き金事象発生の原因
アーク溶接の放電またはタンク487から可燃性ガスの洩れ

事故の引き金事象
溶接作業の火気が可燃性ガスに引火

事故に関係した直接・間接要因
《設計要因》 ・電気・計装設計不良 《工事・施工要因》 ・工事方法不適切